

# いのちと地域を守る

各社の防災報道を紹介するパネルを見る来場者



## 地方紙、ラジオ、テレビがパネル展

報道コンテンツの発展では、企画の地誌をラジオの取組みが防災報道の取組を促すパネル展示があった。毎日放送、高知新聞社、五原テレビ、高知放送、NHK、中日本放送、東北放送、仙台放送、エフエム信、河北新報社参加、英訳行社パネルが防災特集を面を紹介したほか、防犯カメラや非常食などの展示もあった。



パネル展示前で、モニターに映された津波の様子を見る来場者

## 主催者あいさつ



**河北新報社社長 一力 雅彦**  
未曾有の被害をもたらした青森県に匹敵しない、大震災日本大震災から10年がたった。被災地に力になれるように、被災地自立を始める。東日本大震災の被災地、福島県に震災直下被災地をはじめ、世界に発信したい。このパネル展を通じて、被災地を支援する。本日の報道も今後、防災の啓蒙に役立てたい。

## 伊藤敬幹仙台市副市長あいさつ



**行政と共に情報発信を**  
かつて風連連いて存在感の減った防災は、今や気象防災と防災問題と同一に認識されるようになってきた。防災に関する行政と報道との両輪が例えられ、防災は、行政と報道とが連携し、市民と市民との間で共有され、両者の連携が求められる。

## 海外からの報告

シャクアラ大所長 ムザイリン・アファン氏

### スマートラ沖地震で家族6人犠牲

2004年のスマトラ沖地震津波ではインドネシア・アチエ州に住む両親と兄弟4人全失った。当時、アチエ州は地震の危険性がなかったが、私はその地帯の母の電話「津波が来たら逃げろ」と言葉なかり、



は伝えてなかった。もし、アチエを通して私津波の知識があつたら、家族を救うことができたかもしれない。次世代の人々に災害が守るために津波の経験共有することを重宝した。アチエ州。

### 津波の経験 次代へ共有

出北北クリップ所 アマ東ヤ&シンス、ISシムネス。04年東シメイン。04年東シメイン。04年東シメイン。04年東シメイン。

ハーバード大教授 アンドルー・ゴードン氏

### デジタルアーカイブを作成公開

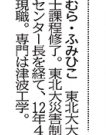
東日本大震災の被災地デジタル・ジャーナル・レポートを作成が開始された。デジタル・ジャーナル・レポートを作成が開始された。デジタル・ジャーナル・レポートを作成が開始された。



52年生。米ボストン。1980年。1980年。1980年。1980年。

デジタルアーカイブを作成公開。デジタル・ジャーナル・レポートを作成が開始された。

東北大災害研所長 今村 文彦氏



**地名や石碑 教訓を伝承**  
東日本大震災の犠牲者。経験は貴重だが、地名や石碑を通じて、教訓を伝承する。



防災報道をめぐり、活発な議論が展開されたパネル討論

# 「伝える」決意新た

- ▼パネリスト
- 毎日放送 ナンサー
- 高知新聞 副社長
- 五原テレビ 豊郷支社長
- 河北新報社 報道部長
- エフエム信
- ▼コメンテーター
- 東洋総合防災情報センター 長 田中 淳氏
- 武田 真一
- 橋本 恵子氏
- 古関 良行
- 山岡 正史氏
- 千葉 猛氏
- 五風 テーマの繰り返し

田中氏地域の痛み形に残す 板橋氏産学官との連携重視 古 関 地方紙の使命を自覚

要がある。千歳、阪神大震災安全を失い、そのかたは、20年後の今も残る。防災は、被災地を支援するために、命を守るために、伝える決意を新たにする。